

平成22年9月21日

京都市長 門川 大作 様

京都市医療施設審議会
会 長 佐 野 豊

京都市病院事業改革プランに係る平成21年度の取組状況の点検・
評価結果について

別記のとおり、「京都市病院事業改革プランの点検・評価結果について（平成
21年度の取組状況）」をとりまとめましたので、通知します。

別 記

京都市病院事業改革プランの取組状況の点検・評価結果について
(平成21年度の取組状況)

平成22年9月

京都市医療施設審議会

京都市病院事業改革プランの点検・評価結果

はじめに

京都市は、当審議会が提出した「京都市立京北病院の今後のあり方について」及び「京都市病院事業に係る今後の経営形態のあり方について」の2つの答申を踏まえ、平成21年3月に、より良い医療サービスを長期的・安定的に提供し続けるためのマスタープランとして、平成21年度から平成23年度までの3年間を計画期間とする京都市病院事業改革プラン（以下「プラン」という。）を策定した。

プランにおいては、実効性を担保するため、毎年度の決算と併せて、取組状況の点検・評価を行い、その結果を公表することとされ、現行の経営形態（地方公営企業法の一部（財務規定等）適用）が継続する平成22年度分までは、当審議会がその点検・評価を行うこととされている（平成23年度分からは地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会が評価・点検を担うこととなる。）。

これを受け、当審議会は、以下のとおり、平成21年度のプランの取組状況について点検・評価を行い、その結果を取りまとめた。

なお、点検・評価を行うに当たっては、医療の質やサービスの向上、健全な経営の確保といった大局的な視点から、いたずらに細事にわたることは避け、重要度に応じて本質的な点検・評価を行うように努めた。

第1 病院事業改革の三つの柱の進捗状況についての評価

1 「地方独立行政法人への移行による、より自律的・弾力的な病院経営の実現」について

京都市は、平成22年3月19日に市会の議決を得て、地方独立行政法人の設立に必要な定款である「地方独立行政法人京都市立病院機構定款」を定め、併せて、地方独立行政法人の業務の実績の評価等を行う「地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会」の組織等について定めた条例を制定した。

このように、京都市においては、病院事業を地方独立行政法人に移行するために必要な手続が着実に進められていると認められる。

なお、平成22年度に入ってから、4月に地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会を設置し、中期目標案について意見聴取を行い、平成22年9月市会に中期目標案が提案されている。

2 「市立病院の新棟整備等による、京都市の中核病院としての機能の拡充」について

新棟整備を中心とした京都市立病院（以下「市立病院」という。）の整備運営事業については、平成22年1月29日に株式会社SPC京都との間で事業契約が締結され、また基本設計協議に着手するなど、平成25年4月からの新棟での診療開始に向けた取組が着実に進捗しているものと認められる。

なお、平成22年においては、引き続き準備が着実に進められており、近く本格工事に着工される見通しである。

また、「平成22年度末において累積赤字を解消する」という目標については、1年前倒しで、平成21年度末において実現されており、平成23年度以降における更なる経営の健全化が期待できる。

3 「市立病院との連携強化等による、京北病院の診療体制の確保」について

京都市立京北病院（以下「京北病院」という。）の診療体制を確保するため、市立病院は医師確保が厳しい状況の下においても、医師、看護師等を派遣し、必要な支援、協力を行っている。

また、薬品の共同調達による経費の節減や資金面、経営面での支援も行われており、両病院の連携強化は進んでいると認められる。

しかし、京北病院の平成21年度決算は、単年度赤字が1億7,400万円に上っており、プランに掲げた「平成23年度決算から単年度収支黒字基調に転換」という目標の達成は極めて厳しい状況である。

当審議会は、平成22年6月に京北病院の療養病床を介護療養型老人保健施設へ転換することが最適である旨の答申を行ったが、その中で、併せて、京北病院の地域における役割や厳しい経営環境、全国的に医師確保が困難となっている状況を踏まえ、運営全般について、次の5点にわたる提言を行った。

- ① 医師の確保
- ② 一般病床及び診療所のあり方についての今後の検討の必要性
- ③ 地域ニーズへの対応と職員の取組
- ④ 地元住民の理解
- ⑤ 職員の働きがいの向上

京北病院については、これらを踏まえて、引き続き医師の確保に取り組むとともに、地域のニーズにより一層的確に 대응することができる運営を行い、経営の立て直しを図られたい。

第2 市立病院における改革の進捗状況についての評価

1 市立病院は、民間病院では十分な対応が困難な感染症医療や災害時医療などの政策医療の提供や地域の中核的な医療機関として高度急性期医療を提供していくことが期待されている。これらの観点からは、次の3点について高く評価できる。

① 新型インフルエンザへの対応

平成21年度において、新型インフルエンザの感染が日本を含む世界各地で拡大した際には、市民の安全・安心を守るため、国内初の新型インフルエンザ患者が発生した5月16日に24時間体制の「発熱外来」を設置して以降、積極的に新型インフルエンザ患者を受け入れ、京都市域における対応の中心的役

割を果たした。

市内には最大で6箇所の発熱外来が設置されたが、初期の同年6月末までの市内の受診者数1,539人のうち、約8割に当たる1,181人を市立病院が受け入れており、感染症指定医療機関としての役割を十分に果たしたと評価できる。

② 地域医療支援病院の承認

地域の医療機関等との連携を強化するため、紹介率・逆紹介率の向上に取り組んだ結果、平成21年9月に医療法に基づく地域医療支援病院の承認を受け、その後においても、更なる地域医療連携の強化に向けた取組が行われており、登録医が100名を超えるなど地域医療連携病院としての役割を適切に果たしていると評価できる。

③ 病院機能評価の認定の更新

財団法人日本医療機能評価機構（以下「評価機構」という。）による病院機能評価を5年ごとに更新し、継続的に改善を行うことが目標として掲げられている。前回（平成16年度）の認定から5年を経過するため、平成21年11月に病院機能評価の審査を受け、平成22年2月に認定の更新を受けた。

評価機構による評価は、患者の権利と医療の質及び安全の確保から病院運営管理の合理性まで幅広い項目を審査するものであるが、審査の結果は、多くの項目で適切であると評価されている。特に、医療機器の管理は極めて適切に行われており、他の模範となるものと高く評価されるなど、全般にわたって前回の認定の際と比べて大幅に評価が高まっており、プランに掲げた事項を十分達成したと評価できる。

2 収支については、平成21年5月に発生した新型インフルエンザへの対応を最優先に取り組み、当該患者の入院治療に備えて空床を確保したことや、救急車による搬送の受入れを一時的に休止するなどの措置を講じたことにより収益が減少し、経営の観点からは厳しいものとなった。

一方、地域医療連携の取組を強化した結果、実入院患者数が過去最高となるなど、収益を向上させるための経営努力の効果が現れるとともに、新型インフルエンザへの対応に係る減収補てんとして、一般会計から7,600万円に上る補助が行われたこともあり、最終的に1億7,800万円の単年度黒字を確保した。

この結果、プランに掲げた「平成22年度末において累積赤字を解消する」というこれまでの目標を1年前倒しで達成することができたことは、評価できる。

3

(1) プランに掲げた市立病院についての具体的取組事項は、42項目であるが、そのうち実施又は達成したものは33項目、一部実施又は一部達成したものは4項目あり（資料2-1参照）、概ね計画どおり進捗していると認められる。

なお、未実施又は未達成のものは、5項目（① より多くの入院患者の受入れと診療報酬のアップ、② 入院・外来比率、③ 入院単価の確保、④ 病床利用率88%、⑤ 職員給与費対医業収益比率の引下げ）であるが、このうち、①から④までの4項目については、感染症指定医療機関として新型インフルエンザへの対応を優先した影響と、また⑤については、全国共通の地方公務員共済制度において法定福利費（いわゆる共済追加費用）が増加した影響が大きいと考えられ、いずれもやむを得ない事情によるものといえる。したがって、概ね計画どおり進捗していると認められる。

(2) なお、次の点については、改善に取り組まれない。

- ① 安全管理については、これまでも取り組まれているところであるが、その体制を更に充実することが必要である。また、病院内におけるインシデントについては、医師からの報告が少ない状況にある。今後、医療安全の確保の観点から医師についても積極的にインシデントが報告されるように徹底されたい。
- ② 入院患者数（延べ患者数）については、救急患者をこれまで以上に積極的に受け入れるとともに、平均在院日数の短縮により空床が生じた場合は、次の患者の受入れを円滑に行うことにより、病床利用率の向上を図るべきである。
- ③ 入院・外来患者比率については、基本的に外来患者の比率を低くしていくという方向性は適切であるが、実際の目標管理に当たっては、各診療科の実態に即したきめ細かい管理を行う必要がある。
- ④ 外来における予約患者の診療待ち時間の長さについては改善を要するため、その短縮を図ることが必要である。
- ⑤ 今後の長期的な展望、方針を検討し、市民のニーズに合った特色のある医療を提供することにより、市民の信頼を得ていくことが必要である。

4 市立病院については、プランにおいて、上記の具体的取組事項42項目のうち6項目については、関連する「数値目標」（計21項目）を掲げている。

（資料3-1参照）

この数値目標は、「医療機能に係る数値目標」6項目と「財政運営に係る数値目標」15項目とから成っている。

まず、「医療機能に係る数値目標」については、6項目のうち4項目について、目標を達成することができており、目標に到達しなかった数値目標のうち「救急車受入件数」は、過去最高となっており、また、「がん患者治療延べ件数」についても、平成20年度実績を上回っており、新型インフルエンザによる影響等を考慮すれば、達成に近いものと評価することができる。

次に、「財政運営に係る数値目標」15項目については、目標を達成することができたのは3項目（「1 平均在院日数」、「9 外来診療報酬単価」及び「11

収益的支出」にとどまった。

未達成の12項目に係る評価は、次のとおりである。

- ① 入院診療に係る数値目標のうち、「4 入院患者数（実患者数）」は、過去最高となったものの、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。一方、「1 平均在院日数」は、プランの最終年度の目標値である14.6日以上に大幅に短縮したため、「2 一般病床利用率」及び「3 入院患者数（延べ患者数）」は、目標を下回った。

「5 入院診療報酬単価」は、平成20年度実績を上回ったものの高額の手術が減少したため、伸び悩んだ。

- ② 外来診療に係る目標のうち、「7 外来患者数（延べ人数）」及び「8 1日当たり患者数（外来）」は、地域医療連携の取組を進め、減らしていくこととしているが、新型インフルエンザに係る外来受診の増加により、平成20年度の実績を上回る患者を受け入れたため、「6 入院・外来比率」も含めてプランの数値目標からは遠ざかる結果となった。しかしこれは、感染症指定医療機関としての役割を適切に果たしたことによる一時的なものであり、やむを得ないものといえる。

- ③ 運営収支に係る数値目標のうち、「11 収益的支出」は目標を達成できたが、その他の項目（「10 収益的収入」、「12 単年度収支」、「13 累積収支」、「14 経常収支比率」、「15 職員給与費対医業収益比率」）についてはいずれも未達成となった。しかし、最重要項目である「12 単年度収支」については、目標である1億8,000万円の黒字には200万円届かなかったものの、ほぼ目標どおりの成果を挙げたと評価できる。

第3 京北病院における改革の進捗状況についての評価

1

- (1) 京北病院は、医療機関へのアクセスが悪い京北地域における唯一の中核的な医療機関であり、地域において医療・保健・福祉サービスを提供する様々な社会資源との連携を図りつつ、地域住民のいのちと健康を支えていくことが期待されている。

救急患者については、平成20年度よりわずかに減少したものの、ほぼ例年に並ぶ2,116人を受け入れており、地域で唯一の救急告示病院としての役割を一定果たしたものと評価できる。

また、地域のニーズや期待に応えるため、次に掲げる取組が行われたことは評価できる。

- ① 高齢者の受診割合が高く、通院手段が限られているという地域の実情を考慮し、平成21年4月から患者送迎車の運行ルートを増設するとともに、通院が困難な方に対する訪問看護、訪問診療の充実に努めた。
- ② 平成21年5月に外来予約診療を開始するとともに、同年6月には地域連

携室を開設し、他の医療機関や介護サービス提供機関等との連携を強化した。

- ③ 平成22年3月から一般病床に比較的長期の入院にも対応できる6床の亜急性期病床を開設し、退院に向けたリハビリテーションや健康管理など、在宅復帰に向けた取組を強化した。

- (2) 入院機能については、平成20年9月に当審議会から「今後2年間における稼働病床利用率の推移や診療報酬の動向等を見極める中で、地域ニーズに見合う機能の確保に努めていくべき」との答申を行った。また、本年6月28日には、市長からの諮問に対し「すべての療養病床（26床）を介護療養型老人保健施設に転換することが最適である」と答申したところであり、この答申においては、併せて、京北病院の地域における役割や厳しい経営環境、全国的に医師確保が困難となっている状況を踏まえて、第1～3において述べたとおり、運営全般について5点にわたり提言を行った。

京北病院については、これらの提言を踏まえ、あらゆる方法により医師の確保に努めるとともに、地域のニーズを的確に把握し、それにしっかり応える運営を行うことが必要である。

- 2 収入面では、療養病棟の入院患者数が前年度を上回ったことにより、入院患者数全体では微減にとどまったものの、外来患者数は減少傾向が続いており、その結果、診療収益の減少が続いている。

費用面では、外来患者に対する投薬の院外処方への移行、薬品の市立病院との共同調達、過去の高金利時代に発行した企業債の低利のものへの借換え等、経費節減が行われた。また、時間外勤務手当を半減させるなど、人件費の抑制にも取り組んだが、全国共通の地方公務員等共済制度における追加費用の料率変更に伴い、法定福利費が大幅に増加したため、人件費総額は小幅な減少にとどまっている。

このため、単年度の赤字額は、平成20年度の1億6,600万円から1億7,400万円に拡大しており、経営は非常に厳しい状況にある。プランに掲げた「平成23年度決算から単年度収支黒字基調に転換」という目標を達成するためには、地域のニーズにより一層的確に対応するとともに、より自律的、弾力的な経営体制を構築することができるという地方独立行政法人制度の利点を生かし、思い切った運営の見直しを図ることが必要である。

- 3 プランに掲げた京北病院についての具体的取組事項は、21項目であるが、そのうち12項目では実施又は達成しており、5項目で一部実施又は一部達成と認められ（資料2-2参照）、一定の進捗が認められる。

なお、未実施又は未達成のものは、4項目（① 経営計画に示す病院経営の数値目標の達成、② より多くの入院患者の受入れ、③ より多くの外来患者の受

け入れ、④ 単年度収支黒字基調転換)である。このように、経営面の取組については、未達成の項目が多く、具体的取組事項の達成が患者の増加や経営の改善に結びついておらず、前述のとおり、平成21年度決算も非常に厳しい内容となっている。

4 京北病院については、プランにおいて、上記具体的取組事項21項目のうち4項目について、関連する「数値目標」(計19項目)を掲げている。(資料3-2参照)

この数値目標は、「医療機能に係る数値目標」3項目と「財政運営に係る数値目標」16項目とから成っている。

まず、「医療機能に係る数値目標」については、「17 延べ患者数(入院(一般+療養))」、「18 延べ外来患者数」、「19 救急患者数」の3項目すべてにおいて目標を達成することができていないが、長期の入院に対応する療養病床においては、平成20年度に比べて延べ患者数が増加している。これは、人口の高齢化による地域のニーズの変化の表れであると考えられ、引き続き、的確に対応していくことが必要であると考ええる。

次に、「財政運営に係る数値目標」については、「10 診療報酬単価(外来)」及び「12 収益的支出」の2項目以外の項目については、目標を達成できていない。

未達成の14項目に係る評価は、次のとおりである。

- ① 一般病床に係る数値目標については、「1 平均在院日数(一般病床)」、「2 病床利用率(一般病床)」、「3 延べ患者数(一般病床)」、「4 診療報酬単価(一般病床)」のすべてにおいて目標を下回った。
- ② 療養病床に係る数値目標のうち「5 病床利用率(療養病床)」、「6 延べ患者数(療養病床)」については、平成20年度を上回り、延べ患者数(療養病床)については、過去最高となったものの、医療必要度の低い患者の増加により、「7 診療報酬単価(療養病床)」は低下した。
- ③ 外来に係る数値目標のうち「8 延べ患者数(外来)」、「9 1日当たり患者数(外来)」については目標を下回った。

なお、外来迅速検体検査加算の算定や検査増等により「10 診療報酬単価(外来)」については、プランの最終年度の目標値である5,074円を上回った。

- ④ 運営収支に係る数値目標については、「12 収益的支出」以外の項目(「11 収益的収入」、「13 単年度収支」、「14 累積収支」、「15 経常収支比率」、「16 職員給与費対医業収益比率)」についてはいずれも未達成となった。とりわけ、「13 単年度収支」については、1億円以上目標を下回っており、財務に係る状況は、非常に厳しいと指摘せざるを得ない。

第4 目標の設定、評価について

プランにおける具体的取組事項には、病院運営の根幹に係る重要課題から、現場レベルの具体的な事業まで軽重様々な項目が幅広く掲げられている。今回の点検・評価は、自治体病院として両病院が果たすべき役割を適切に果たしているかという大局的な視点から行った。今後、特に法人化後の評価にかかわってくる中期計画等における目標の設定や評価に当たっても、この点について留意され、軽重の差に応じた効率的かつ的確なものとなるようにされるとともに、次の点についても留意願いたい。

- ① 具体的取組事項の設定に当たっては、市長レベルのハイレベルな判断事項、法人に任せるレベルの判断事項、現場所属レベルの判断事項を明確に区分して設定し、その点検・評価に際しても、各項目の重要度に応じて、効率的かつ的確な評価を行っていく必要がある。
- ② 救急医療への対応に係る数値目標の設定に当たっては、これまでの救急車受入件数に係る数値目標の設定と併せて、例えば、救急車の受入断り件数を減らすことも目標とするなど、より適切な目標を設定することを検討されたい。
- ③ 京北病院については、プランにおいて設定した数値目標のうちに過大なものがあったと考えられる。今後、数値目標の設定に当たっては、十分に留意する必要がある。
- ④ 数値目標の設定及び評価に当たっては、できるだけ同規模の他病院等の指標をベンチマークとして参照するようにされたい。

おわりに

京都市の病院事業におけるプランの取組状況について京都市医療施設審議会として初めて点検・評価を行ったが、総括的な評価においても、個別の具体的取組事項の達成状況の評価においても、判断の難しい項目があった。しかし、各委員の専門的な視点からの意見を踏まえて取りまとめたものであり、当審議会としては、今回の点検・評価の結果が、市民の皆様方が京都市の病院事業について考えていただく際の参考になれば幸いである。

また、京都市及び今後設立される地方独立行政法人におかれては、今回の点検・評価の結果を十分に参考にされ、市民の健康の保持、増進により一層寄与することができる、より良き病院事業を目指していただきたい。

(参考)

京都市病院事業改革プランに掲げた「具体的取組事項」及び「数値目標」の評価の考え方

1 「具体的取組事項」について (別紙2-1)及び(別紙2-2)参照)

評価は、3箇年計画の初年度の段階での中間的な評価であること、定性的な項目が多いことを踏まえ、○、△、×の3段階で行った。すなわち、プランに取組事項として記載された内容に沿って取組が行われ、又はそこに掲げられた目標が達成されたものは○、一部しか実施されていないもの、又は一部未達成の事項があるものは△、実施されていないもの又は未達成のものは×とした。

なお、数値目標が掲げられている一部の項目については、ある取組をすること又は記述された結果を出すことが求められており、数値目標が参考的な指標とされている場合は、その取組や結果を実現できたかを基本として評価を行い、取組事項が直接数値目標の達成を目指している場合は、当該数値目標の達成状況により評価を行った。

2 「数値目標」について (別紙3-1)及び(別紙3-2)参照)

一部の取組事項について掲げられている年次ごとの数値目標については、数値による定量的、機械的な評価ができることから、◎、○、△、▲、×の5段階で行った。すなわち、プラン最終年度である平成23年度の目標が前倒しして達成されたものは◎、平成21年度の目標が達成されたものは○、平成21年度の目標が概ね達成されたものは△、平成21年度の目標は未達成であったが平成20年度の実績より改善したものは▲、未達成のものは×とした。

平成21年度 京都市病院事業特別会計の決算概要

収益的収入	135億29百万円
収益的支出	135億26百万円
当年度純△損益	3百万円
累積欠損金	△6億52百万円

注)京都市病院事業特別会計は、市立病院事業及び市立京北病院事業により構成している。

第1 市立病院

1 業務量

区 分		平成20年度	平成21年度	増△減
入	診療日数	365 日	365 日	0 日
	稼働病床数	578 床	540 床	△38 床
	稼働病床利用率	79.7 %	81.8 %	2.1 点
	延べ患者数	168,209 人	161,234 人	△6,975 人
	1日平均患者数	461 人	442 人	△19 人
	実患者数	10,122 人	10,490 人	368 人
	平均在院日数	15.6 日	14.4 日	△1.2 日
院	診療日数	365 日	365 日	0 日
	稼働病床数	8 床	8 床	0 床
	延べ患者数	54 人	223 人	169 人
外	診療日数	243 日	242 日	△1 日
	延べ患者数	304,723 人	312,017 人	7,294 人
	1日平均患者数	1,254 人	1,289 人	35 人

2 主な建設改良工事

(1) 主な施設整備事業

北館エレベーター改修工事	1,292万円
本館誘導灯機器ほか電気改修工事	1,243万円

(2) 主な医療機器等整備事業

全身用コンピュータ断層撮影装置	1億4,417万円
血管造影エックス線撮影装置	1億3,335万円

3 財政状況

項目		年度	平成20年度 (消費税抜額)		平成21年度 (消費税抜額)		増△減	
			億	百万円	億	百万円	億	百万円
経 常	収 入	医業収益	124	12	116	18	△7	94
		診療収入	102	93	101	48	△1	45
		入院収益	76	98	73	83	△3	15
		外来収益	25	95	27	65	1	70
		一般会計負担金	19	84	13	22	△6	62
	損 出	その他医業収益	1	35	1	48		13
		医業外収益	6	15	10	76	4	61
		一般会計負担金		0	6	42	6	42
		一般会計補助金	4	09	2	09	△2	00
		国府補助金等その他医業外収益	2	06	2	25		19
計		130	27	126	94	△3	33	
益	支 出	医業費用	122	12	119	24	△2	88
		給与費	66	46	68	76	2	30
		材料費	29	99	26	30	△3	69
		経費その他	18	93	18	21	△	72
	減価償却費・資産減耗費	6	74	5	97	△	77	
	医業外費用	7	80	6	68	△1	12	
	支払利息等	3	60	2	40	△1	20	
その他	4	20	4	28		8		
計		129	92	125	92	△4	00	
差引			35		102		67	
特別損益			0		76		76	
当年度純損益			35		178		143	
累積損益		△1	30		48		178	
資本的収支	収	入	24	54	32	11	7	57
	支	出	31	15	40	82	9	67
	差引		△6	61	△8	71	△2	10

4 企業債の状況

項目	年度	平成20年度末		平成21年度中増△減						平成21年度末			
		未償還残高		発行額		償還額		差引		未償還残高			
		億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円		
建設企業債		71	35	(27)	(97)	32	04	36	27	△4	23	67	12

注) ()内は、借換分で内数である。

第2 市立京北病院

1 業務量

区 分		平成20年度	平成21年度	増△減	
入 院	一 般	診 療 日 数	365 日	365 日	0 日
		稼働病床数	41 床	41 床	0 床
		稼働病床利用率	66.9 %	63.6 %	△ 3.3 ポイント
		延べ患者数	10,216 人	9,520 人	△ 696 人
		1日平均患者数	28 人	26 人	△ 2 人
		平均在院日数	18.9 日	20.5 日	1.6 日
	療 養	診 療 日 数	365 日	365 日	0 日
		稼働病床数	26 床	26 床	0 床
		稼働病床利用率	78.6 %	81.0 %	2.4 ポイント
		延べ患者数	7,217 人	7,683 人	466 人
	計	1日平均患者数	20 人	21 人	1 人
		稼働病床数	67 床	67 床	0 床
		稼働病床利用率	71.3 %	70.3 %	△ 1.0 ポイント
		延べ患者数	17,433 人	17,203 人	△ 230 人
外 来	1日平均患者数	48 人	47 人	△ 1 人	
	診 療 日 数	243 日	242 日	△ 1 日	
	延べ患者数	34,455 人	32,523 人	△ 1,932 人	
診 療 所	1日平均患者数	142 人	134 人	△ 8 人	
	診 療 日 数	242 日	242 日	0 日	
	延べ患者数	3,138 人	2,614 人	△ 524 人	
居 宅	1日平均患者数	13 人	11 人	△ 2 人	
	診 療 日 数	243 日	242 日	△ 1 日	
	延べ患者数	3,450 人	3,870 人	420 人	
1日平均患者数		14 人	16 人	2 人	

注)平成20年5月までは、一般診療稼働病床数46床,療養診療稼働病床数21床

2 主な建設改良工事

主な医療機器等整備事業

病棟空調設備改修工事設計委託

134万円

3 財政状況

項目		年度	平成20年度 (消費税抜額)		平成21年度 (消費税抜額)		増△減	
			億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常	収入	医業収益	7	87	6	78	△	109
		診療収入	6	36	5	62	△	74
		入院収益	3	69	3	40	△	29
		外来収益	2	14	1	72	△	42
		診療所収益		20		13	△	7
		居宅サービス事業収益		33		37		4
		一般会計負担金	1	41	1	01	△	40
	その他医業収益		10		15		5	
	支出	医業外収益		41		82		41
		一般会計負担金		0		40		40
		一般会計補助金		25		25		0
		国府補助金等その他医業外収益		16		17		1
	計			828		760		△68
損益	支出	医業費用	9	58	9	06	△	52
		給与費	5	87	5	78	△	9
		材料費	1	01		62	△	39
		経費その他	2	03	1	98	△	5
		減価償却費・資産減耗費		67		68		1
	医業外費用		36		28	△	8	
	支払利息等		21		16	△	5	
その他		15		12	△	3		
計			994		934		△60	
当年度純損益			△166		△174		△8	
累積損益			△525		△699		△174	
資本的収支	収入		42		5		△37	
	支出		111		53		△58	
	差引		△69		△48		21	

4 企業債の状況

項目	年度	平成20年度末		平成21年度中増△減				平成21年度末			
		未償還残高		発行額		償還額		差引		未償還残高	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円
建設企業債		4	89			44		△	44	4	45

京都市病院事業改革プランに掲げた「具体的取組事項」の実施状況
(京都市立病院)

評価結果案	該当項目数
○=実施又は達成	33
△=一部実施又は一部達成	4
×=未実施又は未達成	5
計	42

うち6項目については、
関連する年次ごとの「数
値目標」(計21項目。達
成状況は資料3-1参
照)を掲載

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
2	事業運営の目標			
	(1)	市民の皆様に親しまれ、愛され、信頼される病院を目指して		
	ア	医療機能の維持・向上		
1		計画的に医療機器の整備・充実を図り、医療機能の維持・向上に努めます。	平成21年度に取得した主な医療機器 ・全身用コンピュータ断層撮影装置（64列CT）（2台のうち1台の更新） 144百万円 ・血管造影エックス線撮影装置（アンギオ）（2台のうち1台の更新） 133百万円 平成21年度の医療機器購入額 433百万円（過去5年間の平均376百万円）	○
2		「地域医療支援病院」の早期承認を目指して、紹介率・逆紹介率の向上や地域の医療機関との連携に取り組みます。	地域医療支援病院の承認（市内5番目、府内8番目） ・平成21年9月1日 紹介率・逆紹介率の向上 ・紹介率 年度目標 41.7%→実績 42.2%（◎41.3%） ・逆紹介率 年度目標 63.0%→実績 68.0%（◎64.0%） （逆紹介率は23年度目標を前倒しで達成） 地域の医療機関との連携 ・登録医数 20年度末 30人→21年度末 66人（22年8月10日現在118人） ・入院病床の共同利用実績 5件 ・高額医療機器共同利用 283件 ・研修会 33回820人参加	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
3	イ 医療技術の向上	医療技術の向上のため、医師等の学会や研修会への参加、院内研修会の実施を積極的に行います。	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度 医師の学会出張に係る1人平均参加回数 <ul style="list-style-type: none"> 常勤医師 4.8回/人 (399回/83人) 専攻医 2.1回/人 (96回/45人) 臨床研修医 0.8回/人 (23回/28人) 合計 3.3回/人 (518回/156人) (平成19年度 481回 平成20年度 473回) コメディカルの平均参加回数 <ul style="list-style-type: none"> 理学療法士, 作業療法士 0.7回/人 (4回/6人) 放射線技師 0.5回/人 (10回/22人) 栄養士 1.0回/人 (5回/5人) 検査技師 0.9回/人 (27回/29人) 薬剤師 3.6回/人 (71回/20人) 合計 1.4回/人 (117回/82人) (平成19年度 140回 平成20年度 78回) 平成21年度 医療に係る安全管理のための院内研修 30回 (平成20年度 15回) 	○
		職員の専門性を高めるため、専門医、指導医、認定看護師、癌化学療法専門薬剤師、医学物理士(放射線治療)、細胞検査士等、各種の資格取得や認定を受けられるよう取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度 市立病院が位置づけられている認定研修施設等 49件 平成21年度 認定医等の資格取得支援(医師の学会出張延べ人数) 合計518人 平成21年度 有資格者在籍数 <ul style="list-style-type: none"> 専門医 (45人) 指導医 (34人) 認定看護師 (6人) がん薬物療法認定薬剤師 (1人) (癌化学療法専門薬剤師が平成21年度に名称変更) 医学物理士 (1人) 細胞検査士 (4人) 	○
4				

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
5	ウ 市民ニーズへの対応	<p>これまでから、「女性総合外来」、「SARS 対応」、「男性専門外来」、「セカンドオピニオン外来」、「緩和ケア外来」等、市民ニーズへの的確な対応を図ってきており、今後とも、関係部局・関係機関との連携を図りながら、常に迅速かつ適切な課題への対応を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門外来の実績（21年度） 女性総合外来 158件 男性専門外来 30件 セカンドオピニオン外来 14件 緩和ケア外来 7件 ・平成21年度に、新型インフルエンザが日本を含む世界各地で感染が拡大した際には、市民の安全・安心を守るため、国内初の新型インフルエンザ患者が発生した平成21年5月16日に、直ちに24時間体制の「発熱外来」を設置して以降、積極的に新型インフルエンザ患者を受入れ、京都市域における中心的役割を果たしてきた。 ・市内には最大で6箇所が発熱外来が設置されたが、同年6月末までの市内の受診者数1,539人のうち、76.7%に当たる1,181人が市立病院に集中した（※市立病院での平成21年度におけるインフルエンザ診療数 5,366人）。 ・市立病院での新型インフルエンザ入院者数 計82人 	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
6	エ 患者サービスの向上	ユニバーサルデザインの考え方に基づく環境づくりや、職員の接遇・対応の一層の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月） 北館の建て替え及び本館の改修に合わせてユニバーサルデザインの考え方に基づき療養環境の向上を図る整備運営事業の事業契約を締結した。 ・外部講師を招いて接遇研修を実施した。 （平成21年10月15日実施） ・御意見箱を設置し、いただいた御意見から改善を実施するとともに、回答・公表を行っている。 主な改善は、次のとおり。 ① 市立病院前のバス乗り場の石垣を低くすることで、歩道を走る自転車から、待合い椅子に座る人が見えるように改善し、事故の危険性を減らした。 ② 京阪交通のバスの時刻表を設置した。 ③ 北館のエレベータの揺れを解消するための工事を行った。 ④ 院内のトイレの衛生環境向上のため、自動水栓の導入を進め、全119箇所のうち53箇所（約45%）の導入を完了した。 ⑤ 防犯カメラを8台増設した(25台→33台)。 ⑥ 民間の絵画サークルの協力を得て、院内の絵画を定期的に交換するようにした。（本館2階外来、本館2階業務用エレベータ前） ⑦ クレジットカードでの支払の整備を進めた。 	○

大項目	中項目	具 体 的 取 組 事 項	平成21年度の実績	評価案																																										
7		<p>入院患者への定期的なアンケートの実施等により、患者サービスの向上の取組を評価し、必要な改善策を講じることで、患者満足度を高めます。</p>	<p><患者満足度アンケート調査></p> <p>入院 平均点 (5点満点)</p> <table border="1" data-bbox="1335 320 1827 552"> <thead> <tr> <th></th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院生活</td> <td>3.86</td> <td>3.93</td> </tr> <tr> <td>食 事</td> <td>3.76</td> <td>3.79</td> </tr> <tr> <td>説 明</td> <td>4.07</td> <td>4.18</td> </tr> <tr> <td>職員の対応</td> <td>4.32</td> <td>4.37</td> </tr> <tr> <td>(うち身だしなみ)</td> <td>4.36</td> <td>4.40</td> </tr> <tr> <td>診療・看護内容</td> <td>4.51</td> <td>4.57</td> </tr> </tbody> </table> <p>外来</p> <table border="1" data-bbox="1335 639 1968 847"> <thead> <tr> <th></th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>待ち時間「長い」</td> <td>32%</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>診療への評価「満足」「やや満足」</td> <td>71%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>職員の対応「満足」「やや満足」</td> <td>70%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>職員の対応満足度(5点満点)</td> <td>—</td> <td>4.4点</td> </tr> <tr> <td>院内の清潔感「清潔」「大体清潔」</td> <td>83%</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>家族に勧められるか「勧める」</td> <td>75%</td> <td>74%</td> </tr> </tbody> </table> <p><診療待ち時間調査アンケート> 平均待ち時間 (加重平均) 平成21年 5月 予約あり52.5分 予約なし79.9分 平成21年10月 予約あり53.8分 予約なし88.3分</p>		20年度	21年度	入院生活	3.86	3.93	食 事	3.76	3.79	説 明	4.07	4.18	職員の対応	4.32	4.37	(うち身だしなみ)	4.36	4.40	診療・看護内容	4.51	4.57		20年度	21年度	待ち時間「長い」	32%	39%	診療への評価「満足」「やや満足」	71%	—	職員の対応「満足」「やや満足」	70%	—	職員の対応満足度(5点満点)	—	4.4点	院内の清潔感「清潔」「大体清潔」	83%	81%	家族に勧められるか「勧める」	75%	74%	<p>△ (入院○) (外来×)</p>
	20年度	21年度																																												
入院生活	3.86	3.93																																												
食 事	3.76	3.79																																												
説 明	4.07	4.18																																												
職員の対応	4.32	4.37																																												
(うち身だしなみ)	4.36	4.40																																												
診療・看護内容	4.51	4.57																																												
	20年度	21年度																																												
待ち時間「長い」	32%	39%																																												
診療への評価「満足」「やや満足」	71%	—																																												
職員の対応「満足」「やや満足」	70%	—																																												
職員の対応満足度(5点満点)	—	4.4点																																												
院内の清潔感「清潔」「大体清潔」	83%	81%																																												
家族に勧められるか「勧める」	75%	74%																																												

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
8	オ	職員のモチベーションの向上		
		職員にとって働き甲斐があり，満足度の高い職場づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見箱に寄せられた意見のうち職員等への感謝の意見 38件（平成21年度） ・（財）日本医療機能評価機構が行う病院機能評価（平成21年11月）を受審し，全246項目中87%の項目で，5段階評価で4以上の評価を得た。 ・医師における副部長ポストの新設（平成21年5月） ・医師における地域手当の段階的引き上げ（一般職員10%） 平成19年度 12%，平成20年度 13% 平成21年度 14% ・医師，看護師等の学会出張への参加 ・医療安全管理研修会等の研修会を開催（内容については概ね好評である。） ・最新の医療機器の導入 	○
9	カ	病院機能評価の受審（更新）		
		平成21年度における「病院機能評価」の認定の更新を目指し，継続的に改善を行います。	<p>平成22年2月9日に認定更新 認定期間：平成22年1月14日から平成27年1月23日</p> <p>全246項目中5段階評価で4以上の評価を得た評価項目の割合 平成16年度 56%→平成21年度 87%</p> <p>評価5の判定を受けた項目（16年度0項目→21年度2項目） 医療機器の管理体制が確立している。 医療機器管理機能が適切に発揮されている。</p>	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
(2) 安全で安心できる市民生活を支える医療提供				
10	ア	医療安全推進の取組		
		<p>これまでから、医療事故に係る公表基準の策定や複数の専従・専任安全マネージャーの配置、医療安全管理委員会活動の強化等、医療安全管理体制の再点検と改善に取り組んできており、今後とも、引き続き職員一丸となって、市民の皆様の期待に応えられる安全な医療の提供に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理委員会の開催（毎月3回） ・「医療安全管理マニュアル」第5版発行（平成21年5月） ・「京都市立病院スタッフハンドブック」第4版発行（平成21年7月） ・医療安全掲示板に「共有すべき医療事故情報」毎月掲示 ・医療安全管理研修会 29回実施 ・モーニング・カンファレンス、ランチオンセミナー実施 ・アクシデントの件数 20年度 31件→21年度 32件 	○
11	イ	院内感染防止対策		
		<p>感染防止委員会の着実な実施や、MRSA対策をはじめとする院内感染防止対策マニュアルの徹底、研修会の実施等の取組を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度感染防止委員会開催実績 計12回 ・感染症内科部長をリーダーとする「感染制御チーム」（ICT）の活動を通じて、感染状況の把握に努めるとともに、病院各部門への指導や啓発を強化している。 ＜平成21年度の活動＞ 院内ラウンド（週2回） 院内ミーティング（月2回） 院内研修会の開催（ICT主催6回） など 	○

大項目	中項目	具 体 的 取 組 事 項	平成21年度の実績	評価案
(3) 自治体病院としての政策医療の機能強化				
12	ア 新型感染症対策	<p>新型インフルエンザの流行時には、他の医療機関との協力のもとに市立病院全体で対応することを既に表明しており、市内で唯一の感染症指定医療機関としての責務を果たします。</p>	<p>平成21年度に、新型インフルエンザが日本を含む世界各地で感染が拡大した際には、市民の安全・安心を守るため、国内初の新型インフルエンザ患者が発生した平成21年5月16日に、直ちに24時間体制の「発熱外来」を設置して以降、積極的に新型インフルエンザ患者を受入れ、京都市域における中心的役割を果たしてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院長以下の関係部門の責任者で構成する「市立病院新型インフルエンザ緊急対策委員会」を設置した（計26回開催）。 ・市内には最大で6箇所が発熱外来が設置されたが、同年6月末までの市内の受診者数1,539人のうち、76.7%に当たる1,181人が市立病院に集中した（※市立病院での平成21年度におけるインフルエンザ診療数 5,366人）。 ・市立病院でのインフルエンザ入院者数 計82人 ・市民の感染防止及び健康管理の確立と合理的な予防接種業務推進を図るため、「ワクチン接種小委員会」を設置し（計14回開催）、国が策定した優先接種対象者順位に基づいてワクチンを接種した。 ・京都府・京都市新型インフルエンザ対策専門家会議に当院医師2名が参加し、「京都府・京都市新型インフルエンザ対策ガイドライン」の策定等に寄与した。 ・新型インフルエンザの発生に伴い、その減収補てんに係る一般会計補助金（76,000千円）を繰り入れた。 	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																								
13	イ	大規模災害・事故対策																										
		大規模災害・事故の発生に備え、多数の患者を収容できるホールや災害時緊急医療機器の整備を行うとともに、DMAT（災害派遣医療チーム）を組織し、各種の訓練に積極的に参加するなど、災害拠点病院としての役割を果たします。	<ul style="list-style-type: none"> ○整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月） ○施設整備に向けたSPC（特別目的会社）との設計協議や、準備工事を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急室の面積を4倍に拡張 ・ヘリポート設置、新館は免震構造 ○平成21年9月1日 平成21年度京都市総合防災訓練に参加。 ○人工呼吸器の増設（20年度 19台→21年度 25台） 	○																								
14	ウ	救急医療への対応																										
		関係機関との連携・役割分担を踏まえ、より多くの救急搬送を受け入れるとともに、引き続き、救急患者が入院を必要とする場合にも円滑に対応できるよう取り組むなど、自治体病院としての責務を果たします。	<ul style="list-style-type: none"> ・救急患者数は目標を達成した。 ・救急車受入件数は、過去最高を達成したが、プランの目標までは届かなかった。 <p>課題 救急車受入件数増加のため、受入れの断り率（21年度14.3%）を更に低下させる必要がある。</p>	△ 救急患者数○ 救急車受入件数×																								
		<数値目標>																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="3">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>19,123人</td> <td>22,495人</td> <td>23,234人</td> <td>○</td> <td>739人</td> <td>これまでの、救急患者を1人でも多く受け入れるための取組及び新型インフルエンザ発生により、救急患者が増加した。</td> </tr> <tr> <td>救急車受入件数</td> <td>2,786件</td> <td>3,231件</td> <td>3,095件</td> <td>▲</td> <td>△ 136件</td> <td>原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、受入件数が増加し過去最高となった。 新型インフルエンザで搬入を抑制したこともあり、目標の達成までには至っていない。</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	説明	数値目標	実績	達成状況	救急患者数	19,123人	22,495人	23,234人	○	739人	これまでの、救急患者を1人でも多く受け入れるための取組及び新型インフルエンザ発生により、救急患者が増加した。	救急車受入件数	2,786件	3,231件	3,095件	▲	△ 136件	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、受入件数が増加し過去最高となった。 新型インフルエンザで搬入を抑制したこともあり、目標の達成までには至っていない。		
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	説明																						
		数値目標	実績	達成状況																								
救急患者数	19,123人	22,495人	23,234人	○	739人	これまでの、救急患者を1人でも多く受け入れるための取組及び新型インフルエンザ発生により、救急患者が増加した。																						
救急車受入件数	2,786件	3,231件	3,095件	▲	△ 136件	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、受入件数が増加し過去最高となった。 新型インフルエンザで搬入を抑制したこともあり、目標の達成までには至っていない。																						

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																								
15	エ 地域周産期母子医療センターとしての対応	地域周産期母子医療センターとして、関係機関との役割分担を踏まえ、合併症妊娠分娩やハイリスク妊娠に対しても、院内の小児科や関係各科の医師との緊密な連携のもと、母子とも安全な分娩管理を行い、他の医療機関からの母体搬送も受け入れることにより、自治体病院としての責務を果たします。	<p><平成21年度の主なハイリスク分娩> 帝王切開82件（うち緊急帝王切開51件）、 切迫早産48件</p> <p><平成21年度の母胎搬送の救急受け入れ実績> 受入55件</p>	○																								
		(4) 京都市の中核病院としての機能																										
16	ア 地域医療連携の推進	市立病院の高額医療機器や入院病床の共同利用、地域医療フォーラム等の取組を積極的に展開してきており、今後、更に病診連携・病病連携に取り組み、紹介率・逆紹介率の向上を図ります。	<p>入院病床の共同利用 平成21年度 5件</p> <p>地域医療フォーラム 2回実施 （平成21年9月26日 115人） （平成22年2月26日 89人）</p> <p>地域医療従事者に対する研修会・カンファレンスの実施（各診療科等が主催） 平成21年度 33回実施，820人参加</p>	○																								
		地域医療支援病院の早期承認を目指します。	地域医療支援病院の承認（再掲） ・平成21年9月1日	○																								
17		<数値目標>																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="3">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">増減理由</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>41.3%</td> <td>41.7%</td> <td>42.2%</td> <td>○</td> <td>0.5%</td> <td>事前予約夜間受付の開始(H20.10~)</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>64.0%</td> <td>63.0%</td> <td>68.0%</td> <td>◎</td> <td>5.0%</td> <td>平成23年度の目標(65.0%)を前倒しで達成</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	増減理由	数値目標	実績	達成状況	紹介率	41.3%	41.7%	42.2%	○	0.5%	事前予約夜間受付の開始(H20.10~)	逆紹介率	64.0%	63.0%	68.0%	◎	5.0%	平成23年度の目標(65.0%)を前倒しで達成		
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	増減理由																						
		数値目標	実績	達成状況																								
紹介率	41.3%	41.7%	42.2%	○	0.5%	事前予約夜間受付の開始(H20.10~)																						
逆紹介率	64.0%	63.0%	68.0%	◎	5.0%	平成23年度の目標(65.0%)を前倒しで達成																						

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																						
18	イ 地域がん診療連携拠点病院としての機能	平成20年3月の「地域がん診療連携拠点病院」の指定要件の見直しに伴い、新たな指定要件による指定更新に対応できるよう、専門知識を有した医師・看護師等の計画的育成や地域の医療機関への支援に積極的に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> 指定更新審査（平成21年10月） 指定更新（平成22年4月～平成26年3月） 外来化学療法センターに平成22年1月から日本腫瘍学会及び日本化学療法学会の認定指導医が専従 化学療法 入院2,068件 外来2,264件 がん相談支援 1,759件 院内がん登録 934症例（平成21年） 地域がん登録 887症例（ 〃 ） 更新した最新のリニアックの稼働（平成21年8月） 「みぶなの会」毎月1回開催 緩和ケア研修会（平成21年4月） 25名参加 がん支援相談員基礎研修受講 基礎研修（1）終了者 3人 基礎研修（2）終了者 3人 基礎研修（3）終了者 1人 <p>※ 指定更新の要件は、下線部分及びがんクリニカルパスの実施の三つのうち二つ以上を実施していることが必要であった。</p> <p><看護師の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> がん放射線療法認定看護師教育課程の受講 平成21年9月～平成22年3月 京都府看護協会主催の教育修了 平成22年7月 認定許可（1名） 緩和ケアエキスパート研修会 平成21年12月～平成22年6月 かんわ療法委員会主催の研修会を修了 看護師30人 	○																						
		<数値目標>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="3">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規がん患者数</td> <td>893人</td> <td>933人</td> <td>953人</td> <td>○</td> <td>20人</td> <td>地域医療連携の強化</td> </tr> <tr> <td>がん治療延べ件数</td> <td>2,413件</td> <td>2,654件</td> <td>2,621件</td> <td>▲</td> <td>△ 33件</td> <td>新規登録がん患者数は増加しているが、目標の達成までには至っていない。</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	説明	数値目標	実績	達成状況	新規がん患者数	893人	933人	953人	○	20人	地域医療連携の強化	がん治療延べ件数	2,413件	2,654件	2,621件	▲	△ 33件
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度				差引 (21実績-21目標)	説明																			
		数値目標	実績	達成状況																						
新規がん患者数	893人	933人	953人	○	20人	地域医療連携の強化																				
がん治療延べ件数	2,413件	2,654件	2,621件	▲	△ 33件	新規登録がん患者数は増加しているが、目標の達成までには至っていない。																				

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
(5) 病院運営の改善				
19	ア	P F I手法による整備運営事業の実施		
		耐震性等に課題がある北館の改築及び本館の改修と、施設の管理、医療周辺業務等の運営業務をP F I手法により実施することとして、現在、入札に向けた手続を進めているところであり、今後とも、この手法によりサービスの質の維持・向上に努めながら、施設整備や管理運営コストを最小化します。	○整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月） ○現在、施設整備に向けたS P C（特別目的会社）との基本設計協議や、準備工事に着手	○
20	イ	経営改善の取組		
		平成22年度末に累積赤字を解消するという目標を達成するとともに、以下の「経営計画」に示す、新たな数値目標を設定し、更なる経営改善に取り組みます。	平成21年度末に、前倒しで累積赤字を解消した。 20年度末 △130百万円 21年度末 48百万円	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																																									
3	経営計画																																												
(2)	新たな中期財政運営目標																																												
21	ア 入院	<p>平均在院日数の短縮と病床利用率の向上を図ることにより、より多くの患者の受入れと診療報酬のアップを目指します。</p>	<p>実患者数は、過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。</p> <p>また、平均在院日数は、プランの最終年度の目標値14.6日以上に短縮することになり、目標を達成した。</p> <p>しかし、平均在院日数は大幅に短縮したため、病床利用率、延べ入院患者数は目標を下回った。</p> <p>診療報酬単価については20年度を上回ったものの、高額の手術が減少したため、入院診療単価は伸び悩んだ。</p>	×																																									
		<p><数値目標></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="3">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>15.6日</td> <td>15.2日</td> <td>14.4日</td> <td>◎</td> <td>△ 0.8日</td> <td>平成23年度の目標(14.6日)を前倒して達成</td> </tr> <tr> <td>一般病床利用率</td> <td>79.7%</td> <td>88%</td> <td>81.8%</td> <td>▲</td> <td>△ 6.2%</td> <td rowspan="2">実患者数の増加(+3.6%)の影響以上に平均在院日数の短縮(△7.7%)による影響が大きかったため、延べ患者数(対前年度比△4.0%)、病床利用率は目標を下回った。</td> </tr> <tr> <td>入院患者数 (延べ患者数)</td> <td>168,263人</td> <td>173,401人</td> <td>161,457人</td> <td>×</td> <td>△ 11,944人</td> </tr> <tr> <td>入院患者数 (実患者数)</td> <td>10,122人</td> <td>10,738人</td> <td>10,490人</td> <td>▲</td> <td>△ 248人</td> <td>実患者数は過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。</td> </tr> <tr> <td>診療報酬単価</td> <td>45,737円</td> <td>48,549円</td> <td>45,742円</td> <td>▲</td> <td>△ 2,807円</td> <td>診療報酬単価については20年度を上回ったものの高額の手術が減少したため伸び悩んだ。</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	説明	数値目標	実績	達成状況	平均在院日数	15.6日	15.2日	14.4日	◎	△ 0.8日	平成23年度の目標(14.6日)を前倒して達成	一般病床利用率	79.7%	88%	81.8%	▲	△ 6.2%	実患者数の増加(+3.6%)の影響以上に平均在院日数の短縮(△7.7%)による影響が大きかったため、延べ患者数(対前年度比△4.0%)、病床利用率は目標を下回った。	入院患者数 (延べ患者数)	168,263人	173,401人	161,457人	×	△ 11,944人	入院患者数 (実患者数)	10,122人	10,738人	10,490人	▲	△ 248人	実患者数は過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。	診療報酬単価	45,737円	48,549円	45,742円	▲	△ 2,807円
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	説明																																							
		数値目標	実績	達成状況																																									
平均在院日数	15.6日	15.2日	14.4日	◎	△ 0.8日	平成23年度の目標(14.6日)を前倒して達成																																							
一般病床利用率	79.7%	88%	81.8%	▲	△ 6.2%	実患者数の増加(+3.6%)の影響以上に平均在院日数の短縮(△7.7%)による影響が大きかったため、延べ患者数(対前年度比△4.0%)、病床利用率は目標を下回った。																																							
入院患者数 (延べ患者数)	168,263人	173,401人	161,457人	×	△ 11,944人																																								
入院患者数 (実患者数)	10,122人	10,738人	10,490人	▲	△ 248人	実患者数は過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。																																							
診療報酬単価	45,737円	48,549円	45,742円	▲	△ 2,807円	診療報酬単価については20年度を上回ったものの高額の手術が減少したため伸び悩んだ。																																							

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績				評価案	
22	イ 外来	診療所や小規模病院との間の患者紹介率及び逆紹介率を高め、平成23年度において、入院・外来比率1:1.7を目指します。	新型インフルエンザ発生の影響を受け、延べ入院患者数が減となるとともに、外来患者数が増となることで、未達成となった。				×	
		<数値目標>						
		目標項目	(参考) 20年度実績	21年度		差引 (21実績-21目標)	説明	
				数値目標	実績	達成状況		
		入院・外来比率	1:1.81	1:1.73	1:1.93	×	0.2	
23	ウ 運営収支	経営改善により、平成21年度(計画初年度)の単年度収支で黒字基調とし、平成22年度末までに累積赤字を解消した上、平成23年度以降の更なる経営改善を目指します。	収入は減収となったが、支出を減収額以上に節減することができたため、過去2番目の水準となる単年度黒字となり、平成21年度末に、前倒しで累積赤字を解消することができた。				○	
		<数値目標>						
		目標項目	(参考) 20年度実績	21年度		差引 (21実績-21目標)	説明	
				数値目標	実績	達成状況		
		収益的収入	13,027百万円	13,563百万円	12,694百万円	×	△ 869百万円	入院収益減によるもの
収益的支出	12,992百万円	13,383百万円	12,592百万円	○	△ 791百万円	材料費減によるもの		
単年度収支	35百万円	180百万円	178百万円	△	△ 2百万円	ほぼ達成		
累積収支	△ 130百万円	82百万円	48百万円	▲	△ 34百万円	改善したが、目標には届かなかった。		
経常収支比率	100.3%	101.3%	100.8%	▲	△ 0.5%	改善したが、目標には届かなかった。		
職員給与費対 医業収益比率	61.1%	58.2%	64.4%	×	6.2%	医業収益の落ち込みによるもの		

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
(3) 経営効率化に関する考え方				
24	ア 民間的経営手法の導入	(ア) PFI手法により整備運営事業を実施します。 (再掲：2-(5)-ア)	○整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月） ○施設整備に向けたSPC（特別目的会社）との基本設計協議や、準備工事に着手	○
		(イ) 平成23年度から非公務員型の地方独立行政法人へ移行することにより、その特徴を生かして、これまでの手法にとらわれない、機敏で柔軟性のある運営を行い、効率的な経営を目指します。	平成22年3月19日に「地方独立行政法人京都市立病院機構定款」についての市会の議決を得るとともに、評価委員会設置条例を制定するなど平成23年4月1日の法人設立に向けた体制整備などの取組を進めた。	○
26	イ 事業規模・形態の見直し	(ア) 新棟整備等によって、感染症医療や救急医療、災害時医療等の政策医療機能、がんや生活習慣病への高度医療機能、地域医療の支援機能を拡充します。	○整備運営事業の事業契約の締結（平成22年1月） ○施設整備に向けたSPC（特別目的会社）との基本設計協議や、準備工事に着手 ・救命救急室の面積を4倍に拡張 ・ヘリポート設置、新館は免震構造 ・心臓・脳・血管病センター（仮称）の設置等	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
27	(イ)	新棟整備等に当たり、現在の延べ入院患者数を維持しつつ、病床を効率的に利用するとともに、安定した病院経営を行うため、現行の586床から38床減の548床（一般病床540床、感染症病床8床）とします。これを先行実施するものとして、平成21年3月に1病棟を休止し、当該病棟の看護師を他の部署へ再配置することにより、医療機能の拡充と医療安全の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年3月に1病棟を休止し548床とし、同年6月1日から、京都市病院事業条例の一部改正により、条例上も病床数を586床から548床（一般病床540床、感染症病床8床）に変更した。 看護師全体の配置を見直す中で、病棟や救急外来で夜勤を行う看護師数を増やし、準夜帯の2人体制を3人体制に増員するなど、夜間の看護体制の充実及び夜勤時の看護師の負担軽減によって、より医療安全に配慮した体制とした。 	○
	ウ	経費削減・抑制対策		
28	(ア)	後発医薬品の導入促進により材料費の節減を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 後発医薬品採用数・比率 <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度 147品目 (9.6%) 平成21年度 151品目 (10.4%) 後発医薬品購入金額・比率 <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度 75百万円 (6.1%) 平成21年度 101百万円 (8.5%) <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医薬品購入金額 <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度 1,231百万円 平成21年度 1,181百万円 	○
29	(イ)	医療周辺業務の委託化を段階的に推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 医師事務作業補助者(ドクタークラーク)の配置 <ul style="list-style-type: none"> 平成21年 3月 6名 平成21年10月 8名 平成22年 4月 13名 整備運営事業の事業契約の締結 (平成22年1月) 	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
30	(ウ)	平成20年度に引き続き、平成21年度も高金利企業債の繰上償還により、利子負担の軽減を図ります。	平成22年2月に低利の企業債への借換えによる繰上償還を行い、利子負担の軽減を行った。 <平成21年度> 借換額 2,797百万円 利率5.5%→0.855% 利子負担軽減額累計 935百万円 <支払利子> 平成20年度 359百万円 平成21年度 239百万円 (参考) <平成20年度> ・借換額 17百万円 利率7.15%, 8.5%→0.954% 利子負担軽減額累計 1百万円 ・借換額 1,996百万円 利率6.9, 6.6%→1.579% 利子負担軽減額累計 761百万円	○
31	エ 収入増加・確保対策	(ア) 専攻医の増員により収益の確保を図ります。	専攻医数の推移 平成20年度 40名 →平成21年度 45名(過去最高)	○
32	(イ)	平均在院日数を、新棟での診療を開始する平成25年度に14日にまで短縮することを目指すことにより、入院単価の確保を図ります。	平均在院日数はプランの最終年度の目標値14.6日以上に短縮することになり、目標を達成した。 しかし、診療報酬単価については20年度を上回ったものの高額の手術が減少したため、入院診療単価は横ばいとなった。 20年度15.6日→21年度14.4日(目標15.2日) 20年度45,737円→21年度45,742円(目標48,549円)	×

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
33	(ウ)	新棟整備時と同数の一般病床数540床に対する病床利用率88%を目指します。	<p>実患者数は過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。</p> <p>また、平均在院日数はプランの最終年度の目標値14.6日以上に短縮することになり、目標を達成した。</p> <p>実患者数の増加(+3.6%)の影響以上に平均在院日数の短縮(△7.7%)による影響が大きかったため、病床利用率は目標を下回った。(対20年度比△4.1%)</p> <p>20年度79.7%(578床ベース。540床ベースに換算すると85.3%)→21年度81.8%(540床ベース)(目標88.0%)</p>	×
34	(エ)	地域医療支援病院の平成21年度中の承認を目指すことにより、収益の確保を図ります。	<p>地域医療支援病院の承認</p> <p>平成21年9月1日</p> <p>地域医療支援病院の承認による増収(21年度)</p> <p>+59,332千円</p>	○
35	(オ)	ICU(集中治療室)を平成21年度から基準稼働することにより、収益の確保を図ります。	<p>ICUの基準稼働</p> <p>平成21年6月1日から4床稼働</p> <p>ICU稼働による増収(21年度)</p> <p>+78,260千円(特定集中治療室管理料算定実績)</p>	○
36	(カ)	DPC(診断群分類別包括評価)による診療報酬請求を平成21年度から導入することにより、収益の確保を図ります。	<p>DPC(診断群分類別包括評価)による診療報酬請求の導入</p> <p>平成21年7月1日から</p> <p>DPC導入による増収(21年度)</p> <p>+180,524千円</p>	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																												
37	(キ)	未収金対策を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収納率の向上 20年度 98.0% →21年度 98.9% ・ 新規発生未収金の減少 20年度 16,962千円 →21年度 7,913千円 ・ 未収金の合計の減少 20年度 163,890千円 →21年度 152,451千円 ・ 「京都市立病院入院分個人負担金債権管理要綱」及び「京都市立病院個人負担金に係る未収金発生防止事務取扱要綱」を策定 	○																												
38	オ その他 (ア)	診療科別収支計算などの管理会計の充実を継続的に実施します。	診療科別の収益管理やDPC分析ソフトの導入を行った。診療科別の費用の把握などについては、今後の課題である。	△																												
(4) 定員管理及び給与の適正化に関する考え方																																
39	ア 定員管理の取組	<p>現行の経営形態においては、「京都未来まちづくりプラン」に基づく京都市全体の取組の趣旨を踏まえ、病院の機能の維持・向上を阻害しない範囲内において、定員管理に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療周辺業務については委託化を推進するとともに、必要な職員を配置することにより、人員が増大することを抑制しつつ、業務の遂行に対応した。 <p>実配置 平成19年度末654名 平成20年度末665名 平成21年度末681名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種区分</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師・歯科医師</td> <td>78</td> <td>78</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>455</td> <td>459</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>91</td> <td>94</td> <td>薬+1, PT+1, 検査+1</td> </tr> <tr> <td>事務・技術</td> <td>31</td> <td>45</td> <td>独法+10, 整備+4</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>調理△4, 助手△1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>665</td> <td>681</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	職種区分	20年度	21年度	増減	医師・歯科医師	78	78		看護師	455	459		コメディカル	91	94	薬+1, PT+1, 検査+1	事務・技術	31	45	独法+10, 整備+4	その他	10	5	調理△4, 助手△1	合計	665	681		○
職種区分	20年度	21年度	増減																													
医師・歯科医師	78	78																														
看護師	455	459																														
コメディカル	91	94	薬+1, PT+1, 検査+1																													
事務・技術	31	45	独法+10, 整備+4																													
その他	10	5	調理△4, 助手△1																													
合計	665	681																														

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
40	イ 給与の適正化の取組	<p>病院機能の中核を担う医師については、全国的に医師が不足する状況のもとにあって、その確保が極めて重要であるため、初任給調整手当の増額など、引き続き給与水準の改善に取り組めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初任給調整手当の引上げ 平成20年度 月額 37,500円～159,000円 → 平成21年度 月額 37,500円～249,000円 ・地域手当の引上げ 平成20年度 13% → 平成21年度 14% ・常勤医師の平均年収（+743千円/年） 平成20年度14,320千円→平成21年度15,063千円 	○
		<p>職員給与費対医業収益比率が他の公立の500床以上の黒字病院と比較して高い状況を踏まえ、医業収益の増加、時間外勤務手当の縮減等に取り組むことにより、この比率の引下げを目指します。</p>	<p>入院収益が落ち込んだため医業収益は減となった。また、時間外勤務手当の縮減等に取り組んだが、患者等への説明等事務量が增大したため、縮減できなかった。</p> <p>（時間外勤務手当 ①9292,943千円 ②318,996千円） ③330,682千円</p> <p>共済追加費用及び職員手当の増加により職員給与費は増加した。また、医業収益も減少した。分子である職員給与費の増及び分母である医業収益の減少により、職員給与費対医業収益比率が増加した。</p> <p>平成20年度 61.1%→平成21年度 64.4%</p>	×
(5) 一般会計における経費負担の考え方				
42		<p>高度医療や感染症医療，二次救急医療等の政策医療については，効率的な運営に努めてもなお性質上不採算とならざるを得ない収支不足部分を補填するために所要の措置を講じていきます。</p> <p>具体的な積算については，総務省繰出基準による繰出しは従前どおり確実にを行うとともに，極めて厳しい本市の財政状況を踏まえ，平成21年度から当該基準外の繰出しは原則として廃止します。</p>	<p>プランにおいて定めたとおり平成21年度から基準外の繰出金は廃止した。ただし新型インフルエンザの発生により，風評によると考えられる一般患者数の減少に伴い想定外の収益の減少が生じたため，その減収補てんに係る一般会計補助金（76,000千円）を繰り入れた。</p>	△

京都市病院事業改革プランに掲げた「具体的取組事項」の実施状況
(京都市立京北病院)

評価結果案	該当項目数
○=実施又は達成	12
△=一部実施又は一部達成	5
×=未実施又は未達成	4
計	21

うち4項目については、
関連する年次ごとの「数
値目標」(計19項目。達
成状況は資料3-2参
照)を掲載

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案			
2	事業運営の目標						
	(1) 地域に密着した魅力ある病院づくり						
1		平成19年度に実施した住民意識調査の結果等を踏まえ、職員の接遇・応対の一層の向上に努めます。	過去に苦情のあった事例に基づき、小グループに分かれ事例の検証・目指すべき対応を継続的に議論（計5回）。その他、京都市の市民対応アドバイザーによる職場訪問の講評では、患者への接し方等について高評価を得た。	○			
2		地域組織等の協力も得る中で、京北病院のタイムリーな周知・広報に努めるとともに、健康増進セミナーの開催をはじめ、地域と連携した事業を実施し、積極的に地域の中への浸透に努めます。	「京北タイムス」（全戸配布）による病院情報の発信…2回、「スマイル通信」（院内設置、関係医療機関送付）…4回、「健康増進セミナー」…3回 実施	○			
3		地域で、医療・保健・福祉サービスを提供する様々な社会資源との連携を図り、京都市立京北病院を核として、医療・保健・福祉のネットワークの確立に努めます。	・平成21年6月 地域連携室設置 ・地域の保健・福祉団体を構成メンバーとする「いきいき京北地域ケア協議会」に21年8月から参画し（平成22年度から正式参画）、関係機関によるネットワークの構築に努めた。	○			
	(2) 自治体病院としての政策医療の担保						
4		地域の疾病構造に対応した、身近なかかりつけ医として、引き続き地域医療を担うとともに、地域で唯一の救急告示病院として、引き続き一次救急に取り組み、二次救急や高度医療については、京都市立病院等、市内中心部の医療機関との機能分担を図りつつ、自治体病院としての責務を果たします。	外来患者は減少傾向にあるものの、救急患者については、例年に並ぶ2,116人を受け入れ、救急告示病院としての機能を一定果たしたが各目標には達しなかった。	△			
		<数値目標>					
	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度 数値目標	実績	達成状況	差引 (21実績-21目標)	増減理由
	延べ入院患者数	17,433人	21,153人	17,203人	×	△ 3,950人	急性期患者の受入減等
	延べ外来患者数	34,455人	39,930人	32,523人	×	△ 7,407人	整形外科などの常勤医師不足もよる患者減
	救急患者数	2,273人	2,261人	2,116人	×	△ 145人	自然減

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
(3) 地域の医療ニーズに対応した診療体制の確保				
5	<p>入院・外来機能等については、中期的には、現状を基本としつつ、地域の医療ニーズに見合った機能の確保に努めます。ただし、今後2年間の稼働状況の推移等により、一定の再編・集約化にも取り組むものとします。</p> <p>なお、国の制度改正に伴い、平成23年度末をもって廃止される、介護保険適用の療養病床については、長期にわたる高齢者の入院機能等の確保が課題となるため、単純に廃止するのではなく、廃止後の受け皿確保とセットで考えるものとし、具体的な受け皿確保の方法については、今後2年間における病床稼働率等の推移や報酬改定の動向等を見極めた上で、別途判断します。</p> <p><現在想定される受け皿確保の方法></p>		<p>平成21年度においては、従来の機能を維持しつつ経営の改善に努める一方、将来のあり方について、内部的な検討を進めた。</p> <p>なお、療養病床については、前回の答申で示された3案に基づき、その機能のあり方について、平成22年5月6日に京都市医療施設審議会に諮問し、6月28日に「すべての療養病床を介護療養型老人保健施設に転換することが最適である」との答申を得たため、施設の開設に向けた取組を始めたところである。</p>	○
	現状維持パターン	医療保険適用の療養病床を維持しつつ、介護保険適用の療養病床を介護療養型老人保健施設に転換		
	医療療養シフト	医療保険適用の療養病床を維持しつつ、介護保険適用の療養病床を医療保険適用に転換		
	新型老健シフト	すべての療養病床を介護療養型老人保健施設に転換		
(4) 健全な病院経営への道筋				
6	<p>京都市立京北病院の中期的な展望として、一定の病院機能の再編・集約化を考える一方で、地域の医療ニーズにより対応した診療体制を確保していくことによって、患者の増加と、これに伴う収益の向上を基本として、健全な病院経営への道筋をつけていくものとし、以下の「経営計画」に示す、病院経営の数値目標の達成に取り組めます。</p>		<p>病院機能については、療養病床のあり方について検討を進めた。患者のニーズに対応するため、通院車のルートの新設や通院車両を購入し、地域の医療ニーズ等に対応するとともに、必要な医療の確保に努めた。</p> <p>しかし、「経営計画」に示す病院経営の数値目標は達成できなかった。</p>	×

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績			評価案																																																													
3	経営計画																																																																		
(1)	中期財政運営目標																																																																		
7	ア 入院	常勤医体制（常勤的に勤務できる非常勤医師を含む。）の充実等に努めることにより、より多くの患者の受入れを目指します。	19年度に2名まで落ち込んだ常勤医師については、4名にまで回復した。療養病床の入院患者は地域の高齢化を反映し、増加したが、目標は達成できなかった。一般病床については、急性期の患者の受入減を反映し減少した。			×																																																													
		<数値目標>																																																																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="3">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">増減理由</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">一般病床</td> <td>平均在院日数</td> <td>18.9日</td> <td>17.9日</td> <td>21.0日</td> <td>×</td> <td>3.1日 急性期の患者の受入減(手術等の減少による)</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>66.9%</td> <td>85.0%</td> <td>63.6%</td> <td>×</td> <td>△ 21.4%</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>延べ患者数</td> <td>10,216人</td> <td>12,721人</td> <td>9,520人</td> <td>×</td> <td>△ 3,201人</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td></td> <td>診療報酬単価</td> <td>25,060円</td> <td>25,504円</td> <td>23,405円</td> <td>×</td> <td>△ 2,099円</td> <td>長期入院傾向による報酬単価減</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">療養病床</td> <td>病床利用率</td> <td>78.6%</td> <td>88.8%</td> <td>81.0%</td> <td>▲</td> <td>△ 7.8%</td> <td>一般病床減による一般病床からの受入減</td> </tr> <tr> <td>延べ患者数</td> <td>7,217人</td> <td>8,432人</td> <td>7,683人</td> <td>▲</td> <td>△ 749人</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>診療報酬単価</td> <td>15,586円</td> <td>17,983円</td> <td>15,260円</td> <td>×</td> <td>△ 2,723円</td> <td>医療区分の低下による報酬単価減</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	増減理由	数値目標	実績	達成状況	一般病床	平均在院日数	18.9日	17.9日	21.0日	×	3.1日 急性期の患者の受入減(手術等の減少による)	病床利用率	66.9%	85.0%	63.6%	×	△ 21.4%	〃	延べ患者数	10,216人	12,721人	9,520人	×	△ 3,201人	〃		診療報酬単価	25,060円	25,504円	23,405円	×	△ 2,099円	長期入院傾向による報酬単価減	療養病床	病床利用率	78.6%	88.8%	81.0%	▲	△ 7.8%	一般病床減による一般病床からの受入減	延べ患者数	7,217人	8,432人	7,683人	▲	△ 749人	〃	診療報酬単価	15,586円	17,983円	15,260円	×	△ 2,723円	医療区分の低下による報酬単価減				
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	増減理由																																																													
		数値目標	実績	達成状況																																																															
一般病床	平均在院日数	18.9日	17.9日	21.0日	×	3.1日 急性期の患者の受入減(手術等の減少による)																																																													
	病床利用率	66.9%	85.0%	63.6%	×	△ 21.4%	〃																																																												
	延べ患者数	10,216人	12,721人	9,520人	×	△ 3,201人	〃																																																												
	診療報酬単価	25,060円	25,504円	23,405円	×	△ 2,099円	長期入院傾向による報酬単価減																																																												
療養病床	病床利用率	78.6%	88.8%	81.0%	▲	△ 7.8%	一般病床減による一般病床からの受入減																																																												
	延べ患者数	7,217人	8,432人	7,683人	▲	△ 749人	〃																																																												
	診療報酬単価	15,586円	17,983円	15,260円	×	△ 2,723円	医療区分の低下による報酬単価減																																																												
8	イ 外来	常勤医体制（常勤的に勤務できる非常勤医師を含む。）の充実等に努めることにより、より多くの患者の受入れを目指します。	整形外科の常勤医など、高齢者のニーズが高い診療科の医師が不足したため、患者数が減少した。			×																																																													
		<数値目標>																																																																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="3">21年度</th> <th rowspan="2">差引 (21実績-21目標)</th> <th rowspan="2">増減理由</th> </tr> <tr> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ患者数</td> <td>34,455人</td> <td>39,930人</td> <td>32,523人</td> <td>×</td> <td>△ 7,407人</td> <td>整形外科などの常勤医不足による患者減</td> </tr> <tr> <td>1日当たり患者数</td> <td>142人</td> <td>165人</td> <td>134人</td> <td>×</td> <td>△ 31人</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>診療報酬単価</td> <td>6,224円</td> <td>5,074円</td> <td>5,287円</td> <td>◎</td> <td>213円</td> <td>外来迅速検体加算の算定, 検査増等</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	増減理由	数値目標	実績	達成状況	延べ患者数	34,455人	39,930人	32,523人	×	△ 7,407人	整形外科などの常勤医不足による患者減	1日当たり患者数	142人	165人	134人	×	△ 31人	〃	診療報酬単価	6,224円	5,074円	5,287円	◎	213円	外来迅速検体加算の算定, 検査増等																																		
目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目標)	増減理由																																																													
		数値目標	実績	達成状況																																																															
延べ患者数	34,455人	39,930人	32,523人	×	△ 7,407人	整形外科などの常勤医不足による患者減																																																													
1日当たり患者数	142人	165人	134人	×	△ 31人	〃																																																													
診療報酬単価	6,224円	5,074円	5,287円	◎	213円	外来迅速検体加算の算定, 検査増等																																																													
※ いずれも、診療所の外来患者分を除く。																																																																			

大項目	中項目	具体的取組事項			平成21年度の実績		評価案	
9	ウ 運営収支	経営改善により、平成23年度からの単年度収支黒字基調転換を目指します。			新たな増収策に取り組むなど、経営改善に努めたものの、経営状況については依然として厳しい状況である。		×	
		<数値目標>						
	目標項目	(参考) 20年度実績	21年度			差引 (21実績-21目)	増減理由	
			数値目標	実績	達成状況			
	収益的収入	828百万円	941百万円	760百万円	×	△ 181百万円	入院(患者数・単価)、外来(患者数)の減少	
	収益的支出	994百万円	998百万円	934百万円	◎	△ 64百万円	整形外科医・看護師の退職、薬剤師・検査技師の異動等、一時金カット等による給与費減(△25,000千円)、院外処方平年度化(△27,000千円)、委託料・光熱水費等の縮減(△10,000千円)等	
	単年度収支	△ 166百万円	△ 57百万円	△ 174百万円	×	△ 117百万円	入院・外来収益の減少	
	累積収支	△ 525百万円	△ 524百万円	△ 699百万円	×	△ 175百万円	〃	
	経常収支比率	83.3%	94.3%	81.4%	×	△ 12.9%	〃	
職員給与費対 医業収益比率	67.1%	67.8%	83.8%	×	16.0%	〃		
(2) 経営効率化に関する考え方								
10	ア 民間的経営手法の導入	平成23年度から非公務員型の地方独立行政法人へ移行することにより、その特徴を生かして、これまでの手法にとらわれない、機敏で柔軟性のある運営を行い、効率的な経営を目指します。			平成22年3月19日に「地方独立行政法人京都市立病院機構定款」についての市会の議決を得るとともに、評価委員会条例を制定するなど平成23年4月1日の法人設立に向けた体制整備などの取組を進めた。		○	

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
11	イ 事業規模・形態の見直し	入院・外来機能等については、中期的には、現状を基本としつつ、地域の医療ニーズに見合った機能の確保に努めますが、今後2年間の稼働状況の推移等により、一定の再編・集約化にも取り組むものとし、なお、診療体制の再編・集約化に当たっては、事業規模等に見合った適正なものとなるよう、必要な職員配置の見直しを検討するものとし、	平成21年度においては、従来の機能を維持しつつ経営の改善に努める一方、将来のあり方について、内部的な検討を進めた。 なお、療養病床については、前回の答申で示された3案に基づき、その機能のあり方について、平成22年5月6日に京都市医療施設審議会に諮問し、6月28日に「すべての療養病床を介護療養型老人保健施設に転換することが最適である」との答申を得たため、施設の開設に向けた取組を始めたところである。	○
		ウ 経費削減・抑制対策		
	12	給食や診療報酬請求等の業務については、引き続き民間委託を行うとともに、平成20年11月から実施している、京都市立病院との間での薬品の共同購入等により、経費の削減・抑制を図ります。	給食業務等については、引き続き、民間委託を行うとともに、京都市立病院との間での薬品の共同購入等により、経費の削減・抑制を図った。	○
13	平成20年度に引き続き、平成21年度も高金利企業債の繰上償還により、利子負担の軽減を図ります。	京北病院については、対象となる高金利企業債が存在しなかったが、平成20年度の借換効果により利子負担は軽減した。 ＜支払利子＞ 平成20年度 21百万円 平成21年度 16百万円 (参考) ＜平成20年度＞ ・借換額 42百万円 利率7.5%→0.965% 利子負担軽減額累計 4百万円	○	

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
14	エ 収入増加・確保対策	常勤医体制（常勤的に勤務できる非常勤医師を含む。）の充実等に努めることにより、より多くの患者の受入れを目指すとともに、京都市立病院との連携強化を図る中で、手術件数の増加等に努めます。	医師の体制については、市立病院を始め、大学病院等からの派遣等により、可能な限り充実に努めた。手術件数は伸びていないものの、京北病院と市立病院との機能分担等について検討を行った。	△ 手術件数の増加については、医師の体制上困難
		的確なベッドコントロールによる病床利用率の向上を図るとともに、診療報酬等に関する院内研修等を実施し、知識の向上等に努めます。	入院患者数の減少により、十分なベッドコントロールを発揮するまでには至らなかった。平成22年度の診療報酬改定に向けて、院内学習会等を開催し院内全体での理解を深め、必要な加算等を届け出た。 ・院内学習会（平成22年3月26日） ・企画会議（平成22年3月18日、23日）	△
16	オ その他	平成20年度内に情報システムを整備し、診療科別収支分析等の経営分析手法を取り入れた進捗管理を行うことにより、数値目標の確実な達成を目指すとともに、各事業部門の責任者からなる院内組織を編成し、病院長の指示が徹底されるシステムを構築します。	毎月行われる定例会議において、収支報告・経営分析を行い、職員間の共通理解を図った。	△ 数値目標の確実な達成には至らなかった。
		「健全な財政が良質な医療を支える」という認識のもと、京都市立京北病院の経営計画を職員全員でしっかり共有するとともに、職員一人ひとりが、医療サービスの提供を通じて地域を支えていくという強い使命感と危機意識を持って、病院経営の改革に取り組みます。	京北病院経営改善会議（21年度は3回実施）を実施するとともに、院長を筆頭に職員全員が一丸となって経営改善を向け取組んだ。	△ 職員に危機意識はあったものの結果には結びつかなかった。
17				

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案																											
18		地域組織等の協力も得る中で、タイムリーな周知・広報に努めるとともに、健康増進セミナーの開催等、地域と連携した事業を実施し、積極的に地域の中への浸透に努めます。	「京北タイムス」（全戸配布）による病院情報の発信…2回、「スマイル通信」（院内設置、関係医療機関送付）…4回、「健康増進セミナー」…3回 実施	○																											
(3) 定員管理及び給与の適正化に関する考え方																															
19	ア	定員管理の取組																													
		<p>現行の経営形態においては、「京都未来まちづくりプラン」に基づく京都市全体の取組の趣旨を踏まえ、病院の機能の維持・向上を阻害しない範囲内において、定員管理に取り組みます。</p>	<p>病院の機能の維持・向上を阻害しない範囲内において、定員管理に取り組んだ。</p> <p>実配置 平成19年度末79名 平成20年度末79名 平成21年度末73名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種区分</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>4</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師・准看護師</td> <td>41</td> <td>38</td> <td>嘱託看護師△3</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>薬剤師△1, 検査技師△1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>9</td> <td>9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>嘱託看護助手△1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>79</td> <td>73</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	職種区分	20年度	21年度	増減	医師	4	4		看護師・准看護師	41	38	嘱託看護師△3	コメディカル	10	8	薬剤師△1, 検査技師△1	事務	9	9		その他	15	14	嘱託看護助手△1	合計	79	73	
職種区分	20年度	21年度	増減																												
医師	4	4																													
看護師・准看護師	41	38	嘱託看護師△3																												
コメディカル	10	8	薬剤師△1, 検査技師△1																												
事務	9	9																													
その他	15	14	嘱託看護助手△1																												
合計	79	73																													
20	イ	給与の適正化の取組																													
		<p>病院機能の中核を担う医師については、全国的に医師が不足する状況のもとにあって、その確保が極めて重要であるため、初任給調整手当の増額など、引き続き給与水準の改善に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 初任給調整手当の引上げ 平成20年度 月額 37,500円～159,000円 → 平成21年度 月額 37,500円～249,000円 地域手当の引上げ 平成20年度 13% → 平成21年度 14% 常勤医師の平均年収（+548千円/年） 平成20年度15,452千円→平成21年度16,000千円 	○																											

大項目	中項目	具体的取組事項	平成21年度の実績	評価案
	(4)	一般会計における経費負担の考え方		
21		<p>一次救急等の政策医療については、効率的な運営に努めてもなお性質上不採算とならざるを得ない収支不足部分を補填するために所要の措置を講じていきます。</p> <p>具体的な積算については、総務省繰出基準による繰出しは従前どおり確実に行うとともに、極めて厳しい本市の財政状況を踏まえ、平成21年度から当該基準外の繰出しは原則として廃止します。</p>	<p>プランにおいて定めたとおり平成21年度から基準外の繰出金は廃止した。</p>	○

京都市病院事業改革プランに掲げた「数値目標」の達成状況 (京都市立病院)

達成状況の区分	該当項目数
◎=23年度目標を前倒しで達成	2
○=21年度目標達成	5
△=21年度目標を概ね達成	1
▲=未達成(20年度実績より改善)	7
×=未達成	6
計	21

改革プランに掲げた「具体的取組事項」42項目のうち6項目(資料2-1参照)において関連する「数値目標」として掲載

数値目標	(参考) ⑳実績	㉑			説明
		数値目標	実績	達成状況	
財務に係る数値目標(主なもの)					
1 平均在院日数	15.6日	15.2日	14.4日	◎	平成23年度の目標(14.6日)を前倒しで達成
2 一般病床利用率	79.7%	88.0%	81.8%	▲	実患者数の増加(+3.6%)の影響以上に平均在院日数の短縮(△7.7%)による影響が大きかったため、延べ患者数(対前年度比△4.0%)、病床利用率は目標を下回った。
3 入院患者数(延べ患者数)	168,263人	173,401人	161,457人	×	
4 入院患者数(実患者数)	10,122人	10,738人	10,490人	▲	実患者数は過去最高となったが、新型インフルエンザの影響がありわずかに目標に届かなかった。

数値目標		(参考) ⑳実績	㉑			説明
			数値目標	実績	達成状況	
5	入院診療報酬単価（一般病床税抜き個室料含む）	45,737円	48,549円	45,742円	▲	診療報酬単価については20年度を上回ったものの高額の手術が減少したため伸び悩んだ。
6	入院・外来比率	1.81	1.73	1.93	×	新型インフルエンザ発生による影響
7	外来患者数（延べ人数）	304,723人	299,354人	312,017人	×	
8	1日当たり患者数（外来）	1,254人	1,222人	1,289人	×	
9	外来診療報酬単価（税抜）	8,514円	8,366円	8,862円	○	外来化学療法等によるもの
10	収益的収入	13,027百万円	13,563百万円	12,694百万円	×	入院収益減によるもの
11	収益的支出	12,992百万円	13,383百万円	12,592百万円	○	材料費減によるもの
12	単年度収支	35百万円	180百万円	178百万円	△	ほぼ達成
13	累積収支	△ 130百万円	82百万円	48百万円	▲	改善したが、目標には届かなかった。
14	経常収支比率	100.3%	101.3%	100.8%	▲	改善したが、目標には届かなかった。
15	職員給与費対医業収益比率	61.1%	58.2%	64.4%	×	医業収益の落ち込みによるもの
医療機能に係る数値目標（主なもの）						
16	救急患者数	19,123人	22,495人	23,234人	○	これまでの、救急患者を1人でも多く受け入れるための取組及び新型インフルエンザ発生により、救急患者が増加した。
17	救急車受入件数	2,782件	3,231件	3,095件	▲	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、受入件数が増加し過去最高となった。 新型インフルエンザで搬入を抑制したこともあり、目標の達成までには至っていない。
18	紹介率	41.3%	41.7%	42.2%	○	事前予約夜間受付の開始（H20.10～）
19	逆紹介率	64.0%	63.0%	68.0%	◎	平成23年度の目標（65.0%）を前倒しで達成
20	新規がん患者数	893人	933人	953人	○	地域医療連携の強化
21	がん治療延べ件数 （注：手術、化学療法等の実施件数）	2,413人	2,654人	2,621人	▲	新規登録がん患者数は増加しているが、目標の達成までには至っていない。

京都市病院事業改革プランに掲げた「数値目標」の達成状況 (京都市立京北病院)

達成状況の区分	該当項目数
◎=23年度目標を前倒しで達成	2
○=21年度目標達成	0
△=21年度目標を概ね達成	0
▲=未達成(20年度実績より改善)	2
×=未達成	15
計	19

改革プランに掲げた「具体的取組事項」21項目のうち4項目(資料2-2参照)において関連する「数値目標」として掲載

数値目標	(参考) ⑳実績	㉑			コメント
		数値目標	実績	達成状況	
財務に係る数値目標(主なもの)					
1 平均在院日数(一般病床)	18.9日	17.9日	21.0日	×	急性期の患者の受入減(手術等の減少による)
2 病床利用率(一般病床)	66.9%	85.0%	63.6%	×	〃
3 延べ患者数(一般病床)	10,216人	12,721人	9,520人	×	〃
4 診療報酬単価(一般病床)	25,060円	25,504円	23,405円	×	長期入院傾向による報酬単価減

数値目標		(参考) ⑳実績	㉑			コメント
			数値目標	実績	達成状況	
5	病床利用率（療養病床）	78.6%	88.8%	81.0%	▲	一般病床減による一般病床からの受入減
6	延べ患者数（療養病床）	7,217人	8,432人	7,683人	▲	〃
7	診療報酬単価（療養病床）	15,586円	17,983円	15,260円	×	医療区分の低下による報酬単価減
8	延べ患者数（外来）	34,455人	39,930人	32,523人	×	整形外科などの常勤医不足による患者減
9	1日当たり患者数（外来）	142人	165人	134人	×	〃
10	診療報酬単価（外来）	6,224円	5,074円	5,287円	◎	外来迅速検体加算の算定, 検査増等
11	収益的収入	828百万円	941百万円	760百万円	×	入院(患者数・単価), 外来(患者数)の減少
12	収益的支出	994百万円	998百万円	934百万円	◎	整形外科医・看護師の退職, 薬剤師・検査技師の異動等, 一時金カット等による給与費減(△25,000千円), 院外処方平年度化(△27,000千円), 委託料・光熱水費等の縮減(△10,000千円)等
13	単年度収支	△ 166百万円	△ 57百万円	△ 174百万円	×	入院・外来収益の減少
14	累積収支	△ 525百万円	△ 524百万円	△ 699百万円	×	〃
15	経常収支比率	83.3%	94.3%	81.4%	×	〃
16	職員給与費対医業収益比率	67.1%	67.8%	83.8%	×	〃
医療機能に係る数値目標（主なもの）						
17	延べ患者数（入院（一般＋療養））	17,433人	21,153人	17,203人	×	急性期患者の受入減等
18	延べ外来患者数	34,455人	39,930人	32,523人	×	整形外科などの常勤医師不足もよる患者減
19	救急患者数	2,273人	2,261人	2,116人	×	自然減